

## 海の幸がいっぱい

～第30回登別漁港まつり～

9月8日(土)・9日(日)の2日間、登別漁港で『第30回登別漁港まつり』(同実行委員会主催)が開かれ、大漁旗を飾った漁船が岸壁に連なる中、イベントを楽しむ方や新鮮な海の幸を求める大勢の人でにぎわいました。

まつりは、台風の影響で開催が心配されましたが、予定通りにスタート。海産物即売コーナーでは、たくさんの方がカニやタラコ、ホッキ貝など新鮮で格安な海産物を袋いっぱい買い求めていました。

恒例となっている人気の『朝揚げサケ抽選即売会』には、開始前から長蛇の列。ひもの先にはサケが2匹ついているものやサケのほかにお酒やブリなどがついているとあって、抽選で当たった方はどきどきしながらひもを引いていました。雌を引き当てた参加者は「夜ごはんはイクラ丼にしよう」と満面の笑顔で話していました。

このほか、『JAくりやま農産物即売会』や『歌謡ショー』『和太鼓演奏』『花火大会』などが行われ、来場者を楽しませていました。



## 一回り大きくなった気がします ～平成19年度登別市中学生海外派遣～



8月27日(月)、デンマークへの派遣を終えて帰国した中学生海外派遣団(中学生5人、引率教諭2人)が、市役所を訪れ、上野市長に帰国報告をしました。

同派遣団は、8月19日から25日までの7日間、『友好都市協定書』を締結しているデンマークのファボー・ミッドフュン市内の家庭にホームステイしながら、学校訪問などを行い交流したほか、歴史的な施設や文化財を見学しました。

帰国報告では、「一回り大きくなった気がします。友だちがいっぱいできました。楽しく交流できました。メールで交流を続けていきたいです。最初は英語が通じず不安でしたが、少しずつ通じるようになり楽しく過ごせました」と派遣の思い出などを報告していました。

## ものづくりを見学 ～三市合同施設見学会～

9月5日(水)、登別・室蘭・伊達の三市の市民を対象とした『三市合同施設見学会』が行われ、登別8人、室蘭16人、伊達16人の計40人が参加して室蘭市内の工場を見学しました。

この見学会は、となりまちの理解と市民交流を深めようと昭和57年から三市持ち回りで行っています。

日本製鋼所室蘭製作所では、工場や迎賓館として利用されている瑞泉閣を見学したほか、鍛冶所では作業途中の刀に実際に触れるなど、貴重な体験に参加者は感激していました。

次に見学した新日本製鐵室蘭製鐵所では、高炉や棒鋼工場などを見学。高炉見学では、高炉のカバーが開けられオレンジ色の炎が噴き上がると、参加者からは大きな歓声が上がっていました。



▲瑞泉閣